

文字を大切にし、生きる力を育む書写学習
～文字に親しみ、書く楽しさを味わうことができる書写学習をめざして～
日常的な活動や他の学習活動と関連させた取組

三好市立三縄小学校 教諭 松本 美穂

1 はじめに

特別支援学級に在籍する1年生の児童は、保育所からの引き継ぎ事項で体幹や体力面での課題が挙げられていた。そこで、文字に親しみ、書く楽しさを味わわせるためには、手先や指先を器用に使うことができるよう訓練するだけではなく、体全体を使った体力作りも必要ではないかと考えた。そこで、書くことに必要とされる基礎的・基本的な力を養うために、日常的な活動や他の学習活動と関連させた総合的な取組を行った。

2 研究主題について

何事にも興味関心をもって学校生活を送り、学習に前向きに取り組む1年生に、文字との出会いを大切にし、さらに書く楽しさを味わってほしいと考えた。しかし、「形が整った文字を正しく書けない」という子どもに対して、つまずきの要因を把握し、それらに応じた取組を行うことで、書くことに向かう気持ちや楽しさを味わわせたいと考え本主題を設定した。

3 指導の実際

(1) 基礎・基本を大切にしたい取組について

- ① 鉛筆の持ち方（「三角鉛筆」、「補助具」を使って）
- ② 筆圧（「ティッシュボール」の考案）

(2) 他の学習活動や日常生活における実践

- ① 粗大運動（体幹トレーニング、筋力トレーニング、空手）
- ② 文字を書くときの姿勢（「しょしゃたいそう」の取組）
- ③ 遊びの中で（こま回し）
- ④ 生活の中で（掃除の時間）
- ⑤ ポイント連絡帳（毎日の日記指導）
- ⑥ 「かん字の木」・「かん字カルタ」
- ⑦ 年賀状を書いてみよう

4 成果と今後の課題

日常的に「粗大運動」に取り組むことによって、体全体のバランスや体幹が強化され、そのことが手先の微細な運動にもつながるということが分かった。しかし、今後の課題として、文字全体の構成に関する予想の力が十分でないことが挙げられる。子どもがより主体的になって書くことができるような思考力・想像力を養っていきたい。

5 おわりに

文字を大切にし、書く楽しさを味わいながら文字で自分の気持ちを表現したり伝えたりすることができる主体的な子どもの育成をめざし、今後も取り組んでいきたい。

